川越市の認定中心市街地活性化基本計画について

川越市産業観光部中心市街地活性化推進室　土屋　正裕

1．川越市の概要

川越市は、埼玉県の南西部に位置し、面積109.16km^2、全体に平坦で、おおまかに北東部の水田地帯、中央部の市街地、南西部の畑作地帯に分けられます。

現在の人口は約33万8千人であり、都心から約30km、電車で約30分の距離に位置し、ベッドタウン的要素を多く持っていながら、商品作物を生産する都市近郊農業、交通の利便性を生かした流通業、伝統に培われた商工業、豊かな歴史と文化を資源とする観光など充実した都市機能を有しています。

また、江戸文化の歴史を今に残す希少な城下町と言われており、様々な面で密接に関係していた江戸の影響を受けたことから「小江戸」とも呼ばれています。

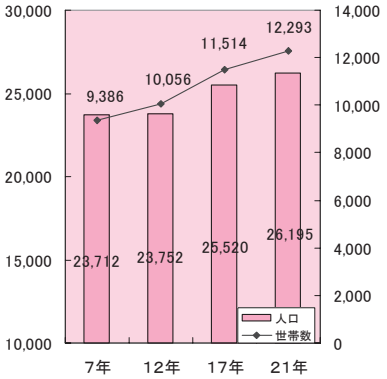
また、平成21年3月30日から放送しているNHK連続テレビ小説「つばさ」は、本市が主な舞台となっています。

2．中心市街地の区域

中心市街地の区域は、歴史的・文化的資産が集積している地域と、鉄道駅を中心に商業・業務施設が集積している地域を含めて265haに設定しました。

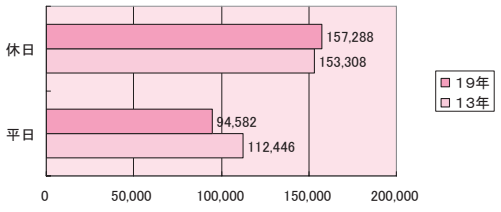
3．中心市街地の概況・課題

人口・世帯数については、川越駅、本川越駅周辺を中心に民間のマンション建設が進んでいることなどにより、伸びに鈍化が見られるものの、年々増加傾向で推移しています。



人口と世帯数

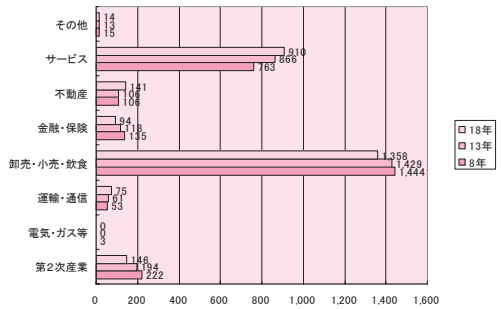
歩行者・自転車通行量は、鉄道駅周辺の中心的な商業地域13地点の合計で平成13年と平成19年を比較すると、平日は19.5％の減少、休日は2.6％の増加となっています。また、中心市街地の南北の結節地点である中央部に、通行量の谷間があります。



歩行者・自転車通行量（対比可能な１３地点計）

NHK 朝の連続テレビ小説「つばさ」効果もあり、観光客は年々増加傾向にありますが、滞在時間半日未満の短時間観光が多く、消費活動率が低い傾向にあります。

事業所数は若干の減少傾向にあります。その中で、小売業や飲食店は大幅な減少が見られ、また、サービス業については、増加しているものの伸び率には鈍化が見られます。一方では郊外や近隣の市町に大規模店舗の立地が進んでいることから、事業所数の減少によって、中心市街地のにぎわいの衰退が懸念されます。



中心市街地の業種別事業所数

また、道路網は、中心市街地から放射状に伸び交通が集中する構造となっていることに加え、道路整備率が 36.5％と低く、そこに観光目的の流入車両が増加していること等から、慢性的な交通渋滞が課題となっています。

このようなことから、中心市街地の活性化は、「既存ストックを活用した郊外型大規模店舗との差別化」、「多様な交流を創出するサービスの提供」、「商店街の活性化」、「歩行者空間の整備」、「公共交通の利便性向上」を図り、「来街機会」、「滞在時間」の向上によるにぎわいの回復が課題であるといえます。

4. 基本コンセプトと基本的方針

本市の中心市街地は、歴史的・文化的ストック等に多くの観光客が集まる北部地域と、商業等の集積があり買物客が多く集まる南部地域の２核構造となっています。この「古さと新しさが共生するまちの魅力」は川越らしさの象徴であり、未来に残し、伝えていくことが、これからの中心市街地そして川越市の発展のため重要であるため、「川越らしさを未来につなぐまちづくり」を中心市街地活性化の基本コンセプトとしました。北部の「歴史的・文化的地域」は商業・文化等の機能を高め、また、南部の「商業・業務集積地域」は商業・サービス機能の充実を図り魅力ある都市空間を創出します。そして、以下の方針に基づき、それらの両地区を結節することで、川越市の顔としての「都心核」を形成していくこととしました。

(1) 歩いて回遊したいまちづくり

環境に優しく、過度に自動車に依存せずに居住者・来街者等誰もが安心してまちなかを移動できる歩きやすいまちづくりを進めます。また、道路整備等のハード事業と交通円滑化方策等のソフト事業を効果的に実施し交通渋滞を緩和することで、歩行者の安全確保、公共交通の定時性確保を図ります。併せて、商店街の連続性確保や新たなにぎわいスポットの創出等により、「点」から「線」、「線」から「面」へと、中心市街地のつながりを強化し、回遊性の高いまちづくりを進めます。

(2) 活力とにぎわいのあるまちづくり

地域経済の活性化を図るため、広域的な観点から

交流とにぎわいのあるまちづくりを進めます。そのために、川越駅西口に西部地域振興ふれあい拠点施設を、また、中心市街地の南部と北部両地域の結節部分には酒造会社跡地の酒蔵等の歴史的・文化的建物を活用した拠点を整備します。また、それに併せた商店街環境の整備、イベント等を効果的に実施し、中心市街地ならではの多様なサービスの提供のあるまちづくりを進めます。

5. 数値目標

基本的方針に基づく活性化の目標と具体的に評価する数値目標を設定し、活性化に取り組んでいくこととしました。

(1) 目標 1「回遊性の向上」

・数値指標 1　歩行者・自転車通行量（平日）
　現況（H19）70,420 人　⇒　目標 81,000 人
・数値指標 2　歩行者・自転車通行量（休日）
　現況（H19）124,024 人　⇒　目標 130,000 人
・数値指標 3　滞在時間半日以上の観光客割合
　現況（H17）51.6%　⇒　目標 61.6%

(2) 目標 2「商業・サービス業の充実」

・数値指標　卸売・小売業、飲食業、サービス業の事業所数
　現況（H18）2,268 事業所 ⇒ 目標 2,310 事業所

6. 主な事業

(1) 地域創造支援事業（鏡山酒造跡地）

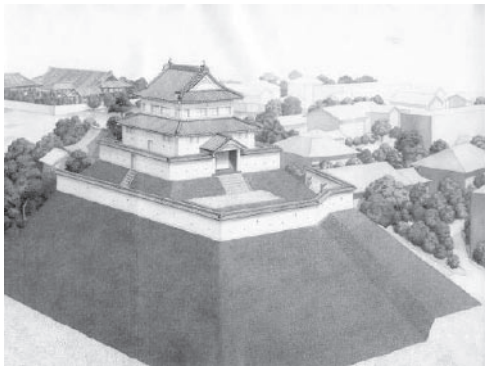
北部の観光客や南部の買物客の目的地となるような施設として、中心市街地の中央にある鏡山酒造跡地を、飲食、物販、観光案内、イベントスペース等の多様なサービス機能を有する市の施設として整備することで、様々な来街者の回遊性の向上を図ります。本施設は産業観光館として指定管理者を募集し、平成 22 年 10 月の開業を目指します。

(2) 西部地域振興ふれあい拠点施設

業務系のオフィスが立地するものの空閑地が点在する川越駅西口地区に、「産業支援・人材育成施設」、「にぎわい施設」、「市民活動交流支援施設」の機能をもつ、多彩なふれあいによる地域活力の創造拠点を創出することで、南部の都市機能の強化を図ります。

(3) 川越城富士見櫓跡整備事業

北部の歴史的・文化的地域にある川越城址の一角に、天守閣の代わりであった富士見櫓を復元し、史跡公園として新たな観光資源を創出することで、観光客の回遊性の向上を図ります。



7. おわりに

中心市街地活性化のため、南部、北部及びその中間地域に上記のような代表的な施設を整備するほか、道路整備、パークアンドライドも視野に入れた郊外型駐車場、交通規制等の交通円滑化方策、街路灯更新等による商店街環境の整備、イベント、空店舗対策、若手人材の育成等の様々な事業を実施していきます。今後は、中心市街地活性化協議会を中心に意見の調整を図り、事業効果を高めていきたいと考えています。

NHK 連続テレビ小説「つばさ」は、9 月 26 日まで放送されます。蔵造りの町並みや時の鐘など、川越の景観が全国のお茶の間に紹介されています。この機会に是非、小江戸川越にお越しください。

（つちや　まさひろ）